

## 1

## 株式会社SCREENホールディングス

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● バリューチェーンのCO<sub>2</sub>総排出量20%削減を長期目標に設定し削減活動を実施していた。</li><li>● CDP回答におけるScope3のすべてのカテゴリーを網羅できていなかった。</li><li>● SBT目標を検討するにあたりScope3をすべて網羅する必要があった。</li></ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● アニュアルレポート、サステナビリティデータブック、自社公式ウェブサイトへの情報開示。</li><li>● CDPなど外部調査への回答。</li><li>● 2020年に設定したSBT目標のScope3についての実績確認。</li></ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● 気候変動対応に関するステークホルダーからの要求にこたえることができる。</li></ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● グループEHSマネジメントの取り組みの一つとしてバリューチェーンのCO<sub>2</sub>排出量を算定。</li></ul>

## 2

## 株式会社SCREENホールディングス

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>● カテゴリ11「販売した製品の使用」がサプライチェーン排出量のほとんどを占めるため、製品のエネルギー削減を目標設定し、削減活動に取り組んでいる。</li><li>● SBT目標として、Scope3 カテゴリ11の削減目標を設定し、カテゴリ11のGHG第三者検証を始めた。</li></ul>
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 2019年度の支援事業で教わった排出原単位データベースの有効期限。</li></ul>
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 2020年度のCDP回答から、2019年度の支援事業で習得した算定手法に切り替えた。</li></ul>

## 3

## 株式会社SCREENホールディングス

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2019年4月～2020年3月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 資材の調達 原材料購入額	● 生産者価格当たり排出原単位*1
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● 資本財価格当たり排出原単位*1
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● 燃料調達時の排出原単位*1, 2
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 製品国内輸送量	● 輸送トンキロ当たり排出原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別の排出量	● 廃棄物種類・処理方法別の排出原単位*1
カテゴリ6「出張」	● 従業員数	● 従業員当たりの排出原単位*1
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数、年間勤務日数	● 都市区分別の排出原単位*1
カテゴリ8「リース資産（上流）」	算定対象なし	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 製品海外輸送量	● 国際貨物航空輸送排出原単位*2
カテゴリ10「販売した製品の加工」	算定対象なし	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 製品エネルギー使用量、製品出荷台数	● 電気事業者排出係数代替値
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品出荷重量	● 廃棄物種類・処理方法別の排出原単位*1
カテゴリ13「リース資産（下流）」	カテゴリ11にまとめて計上	
カテゴリ14「フランチャイズ」	算定対象なし	
カテゴリ15「投資」	算定対象なし	
「その他」	算定対象なし	

\*1 サプライチェーンを通じた組織の温暖化ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.2.6）

\*2 カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 基本データベースver.1.01

# 4

# 株式会社SCREENホールディングス

## サプライチェーン排出量算定結果

